

■権藤成卿 農本主義思想家。明治絶対主義国家体制を批判、昭和維新運動の源流となり、〈五・一五事件〉等に影響。

ごんどうせいきょう

明治維新・1868＝ 久留米藩の浪人から筑後府中に土着して屈指の医家となった家柄ながら、維新後、西洋医学を目の当たりにして、郊外の山川村隠棲した権藤直の長男に生まれる。
初の日刊新聞1870＝ 2歳：久留米藩の不平等士族らが中心となった〈明治政府転覆事件〉が発覚、
廃藩置県・1871＝ 3歳：〈明四事件〉となる。次弟の震二(のち光永星郎と日本電報通信社を創立)誕生後、

明治6年政変 1873＝ 5歳： さらに3人の弟・3人の妹ができる。

西南戦争・1877＝ 9歳： この頃、元田作之進(のち立教大学を創設)が山川村の権藤家に下宿、

・ ・ ・ ・ ・ 1880＝12歳： 尋常小学校卒業後、母の弟で福岡在住の星野彦三郎方に預けられ、
明治14年政変1881＝13歳：
新体詩抄・1882＝14歳： 〈明四事件〉の関係者で大阪の財界にあった本荘一行のもとに実業見習いに出され、
岩倉具視没・1883＝15歳： 大きな影響を受けるも、商業に向かず帰郷。二松学舎に入学するも、
秩父事件・1884＝16歳： まもなく放校となって帰郷、
内閣発足・1885＝17歳： この頃、父のもとに武田範之ら多くの有為の青年が集まる。
帝国大学始・1886＝18歳： (明善齋)英語教師の宮崎駿児に随行し中国を旅行した。

この間、5つ年長の武田範之とことに親しくなり、

帝国憲法発布1889＝21歳：

足尾鉞毒始・1891＝23歳： 京都の名刹空也堂の娘と結婚後、
大本教・ ・ ・ 1892＝24歳： 武田範之・崎来城らが結成した{久留米青年義会}に参加して、大陸問題にかかわり始め、
郡司千島探検1893＝25歳： 玄洋社の結城虎五郎と武田が企てた朝鮮の金鷲島での漁業事業に大きな資本を投ずるが、
日清戦争始・1894＝26歳： 失敗し、武田は逃亡して〈東学党〉に投ずる。
日清戦争終・1895＝27歳： 自分の屋敷を内緒で担保としていたため、父の怒りを買ひ、勘当同然となって、長男誕生後、妻子を残したまま、単身長崎の春徳寺に寄寓するとともに、家督を長男に譲る。

失意のなか、読書三昧の生活をおくるが、次第に、あせりが鬱積、この間、武田らの活動が白熱化して、さらに資金援助を求められ、

ピアノ国産化・1900＝32歳： ついに、山川村の屋敷を売却するまでになる。
田中正造直訴1901＝33歳： 長男が病死。内田良平らによって{黒竜会}が結成されると、
教科書疑獄・1902＝34歳： 理論的裏付けを与えようと、長崎から東京に移住して、文筆活動に入る。
この間、東京の自宅は{黒竜会}に関係ある日本人・韓国人・中国人の溜まり場となる。
日露戦争始・1904＝36歳： この年、李容九らが{一進会}を結成。北満州時令攷を脱稿し、「軍国経済論」に跋文を執筆。

日露戦争終・1905＝37歳：
満鉄発足・ ・ ・ 1906＝38歳： 父が死去。中国革命同盟会の章炳麟・黄興・宋教仁らと交遊。
日・朝・満洲・シベリアを連ねた一つの国を構想、その端緒とすべく一進会財団計画に深く関係し、

アヲキ創刊・1908＝40歳： 内田良平らと中国向けの総合雑誌{東亜月報}を発刊し、その編集に従事するもまもなく廃刊。
伊藤博文暗殺1909＝41歳： 長女誕生。{一進会}{黒竜会}合邦世論喚起のため、韓国内を遊説、
韓国併合・ ・ ・ 1910＝42歳： 無血で〈日韓併合〉となるものの、{黒竜会}メンバーの意図したものと全く異なる結果となり、
大逆事件判決1911＝43歳： 武田が死去し、続いて兵庫の須磨で転地療養していた、
明治天皇没・1912＝44歳： 李容九が死去して後は、{黒竜会}内の役割も終って、内田から遠ざかり、
大正政変・ ・ ・ 1913＝45歳：
第一次大戦始1914＝46歳： なお関係者で内輪の討論組織{南葵文庫の会}が結成されるが、見るべきものは無く、

詩会に参加、あるいは自ら開催するなどしながら、

本格政党内閣1918＝50歳： 実妹誠子を通じて大杉栄らと交流。「米穀需給区画制定論」を執筆、社会改革団体{老社会}に加わり、
ベルサイユ条約・1919＝51歳： 山県有朋と会談。「皇民自治本義」を執筆。{皇民一性会}を組織。{老社会}で“大化の改新”について講演。
大暴落・ ・ ・ 1920＝52歳： 処女作「皇民自治本義」を出版。{南葵文庫の会}を核に{自治学会}を創設、「自治講習録」を出版、
原敬首相暗殺1921＝53歳： 一条公爵家に入入り、
水平社結成・1922＝54歳： 日本最古の書の触れ込みで撰政宮(昭和天皇)に献上台覧も得た「南淵書」を出版するも、黙殺される。
関東大震災・1923＝55歳： *〈関東大震災〉で、「震災前後急務」を刊行し、大杉栄虐殺を喜んだ内田と袂別。国士館で教鞭をとり、家に出入する学生らが{甲子会}を組織。
護憲三派圧勝1924＝56歳： {自治学会}会員が日銀で〈金貨兌換要求事件〉を起こし、「金紙を平衡せよ」を刊行。

金融恐慌・ ・ ・ 1927＝59歳： *主著「自治民範」を出版、金鶏学院の講師となり、四元義隆ら青年憂士らが集まり始め、
共産党事件・1928＝60歳： 長女が死去。
少壮軍人(特に海軍)や民間人(井上日召・橋孝三郎)との関係が生じ、大きな影響を及ぼす。

満州事変・ ・ ・ 1931＝63歳： 「八鄰通聘攷」出版。日本村治派同盟に参加した。
五一五事件・1932＝64歳： *〈血盟団事件〉で警視庁に留置され、〈五・一五事件〉の黒幕と書きたてられる。私塾{成章学苑}を開き、農民運動のリーダーが集まり活動。思想が全国に浸透し、「日本農制史談」「農村自救論」「日本震災凶徒攷」「君民共治論」を次々出版。

国際連盟脱退1933＝65歳： 〈五・一五事件〉民間判決。漢詩集「閑々子詩」を出版。
帝人疑獄事件1934＝66歳： 〈血盟団事件〉判決。{制度学雑誌}を創刊するも、まもなく廃刊。
芥川直木賞始1935＝67歳： {自治学会}を発展させて{制度研究会}とし、機関誌{制度の研究}を発刊、
二二六事件・1936＝68歳： 「自治民政理」「其の後に来るもの」を出版し、*和平工作のため訪中を準備するも、
日中戦争始・1937＝69歳： 病没した。